

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その58

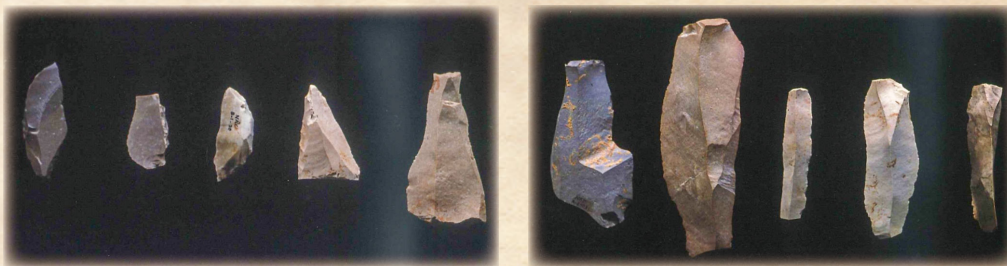
町で最も古い人類の痕跡 ～山本遺跡～

上小島自治区の登世島字山本地内に山本遺跡があります。そこからは今から約1万5000年前の旧石器時代後期の遺物が発見されています。旧石器時代とは、粘土を焼成して煮沸や貯蔵などをするための道具である土器が作られる前の時代になります。

山本遺跡の発掘調査は、昭和61年(1986)、郡山女子大学によって行われました。その結果、石の刃物である石刃などの石器のほか、作る時にできたかけら(破片・剥片)など325点の遺物が確認されました。これらが西会津町で1番古い人類の痕跡となります。

1万5000年前の日本がどのような環境であったかという、平均気温が今より5～6℃ほど低い氷河時代の終わりごろにあたり、まだユーラシア大陸と陸続きでオオツノジカやナウマンゾウなどの大型生物が生息していました。当時の人類はこのような大型動物を狩りの対象として、食料や毛皮などを手に入れたと考えられています。やがて気候は温暖化に向かい、日本列島は大陸から切り離され、大型動物もいなくなり、落葉広葉樹林を中心とした現在に近い環境になって、1万2000年前から縄文時代が始まりました。

なお、山本遺跡からの出土遺物は、現在、東北大学で保管しています。



山本遺跡から出土した石器

今月の表紙

今月は、令和3年度町成人式より。広報紙をさかのぼって見たところ、冬の開催は昭和46年度以来でした。

力強く大人への道を歩み出した新成人の皆さん、誠にありがとうございます。皆さんの歩む道がますます光り輝いていくことを心よりお祈りいたします。(2ページから関連記事)

編集後記

この2月号では、昨年12月から今年1月上旬の町の出来事をお伝えしており、「昨年」と「今年」が混在しています。広報紙を作っていると、前月の出来事とその翌月号に掲載することがほとんどです。立て続けに取材があったり、掲載まで期間が空いたりすると、「今が何月なのか」がたまに分からなくなってしまうことがあります。今月号は、年をまたいでバタバタした中で作ったので、なおさらそう感じてしまいました。(秦)